

## 事後評価シート

調査研究課題名	交通の健康学的影響に関する研究
担当者	研究官 蹴揚 秀男
当初目標と目標達成度	<p>本調査研究は、通勤混雑、交通渋滞、長時間搭乗等が「人の健康」に及ぼす影響について分析することを目的に、各種の生理学的手法等を用いて交通機関利用時のストレスを測定したものである。この結果、交通分野での調査実施手法や交通と人の健康との関連性について多くの知見を得ることができた。</p>
調査研究内容の妥当性	<p>これまで交通機関利用時のストレスが「人の健康」に及ぼす影響に関する研究事例はほとんど見られず、独自性が高い。また、本調査研究では、健康学的見地から交通を捉える第一歩として、航空機、バス、鉄道を実際に利用した際のストレスを測定することにより、交通機関利用時のストレス変動と搭乗時間や混雑度合いとの関連性等について幅広く考察することができた。</p>
調査研究の仕組みの妥当性	<p>学識経験者、交通事業者、省内関係者等からなる「交通の健康学的影響に関する研究会」を設置するとともに、諏訪東京理科大学助教授 篠原菊紀氏を平成15年度から当研究所客員研究官として招聘し、的確な意見を受けながら調査研究を進めることができた。</p>
成果と活用	<p>研究成果を対外的に公表するとともに、今後の国土交通施策の検討材料として役立てる。</p>
その他	<p>これまでの調査結果については、PRI Review2003年春季、2004年春季、2005年春季の各号に掲載済み。</p>
意見	